

※この内容は公園遊具を擬人化したフィクションです。

わたしはガリバーの
市民の森公園に住んでいる。
わたしが目立ち過ぎてしまうせ
いか、市民の森公園は通称「ガ
リバー公園」と呼ばれ、親しまれ
ている。

巨大公園遊具 ガリバーの謎

なぞ

自己紹介

1985年（昭和60年）から市民の森公園に住んでいる鳥羽市民だ。

右腕は滑り台となっており、脇をくぐって滑り出し、手のひらに着地する仕組みとなっている。元気に遊ぶ子どもたちの笑顔を見るのが私の楽しみであり、使命だと思っている。



「広報とば」1985年4月16日号

ガリバー基礎情報：「ガリバー旅行記」の主人公
アイルランド人のジョナサン・スウィフト作の小説「ガリバー旅行記（1726年）」に登場する船医。船で小人の国や巨人の国などさまざまな国を旅している。

観光課 ☎ 251157

みなさんご存じの市民の森公園にある巨大公園遊具「ガリバー」。
今では市民の森の象徴として子どもたちから愛されるガリバーですが、ガリバーの過去や最近の活躍をご存じでしょうか？
今回の広報とばでは、ガリバーに関する魅力を掘り下げて、ガリバー自身が語りかける文面でお伝えします。
ガリバーの話題をきっかけに、市民の森公園をはじめとした鳥羽のさまざまなスポットにお出掛けいただくことで、市内外のみならずと鳥羽のまちをつなぐ架け橋になれば幸いです。



ガリバーの過去～ぶらじる丸乗組員時代～

実は最初から市民の森にいたのではない。さかのぼること数十年前。1974年～1996年の間に鳥羽港に係留されていた



元移民船の海洋パビリオン「鳥羽ぶらじる丸(約1万トン)」の後部デッキで数年間勤務していた。どうだろう、顔もどこか若々しく感じる。

鳥羽ぶらじる丸船上のガリバー
「海の話」No.48 昭和57年3月発行

当時の子どもたちも、今では立派な大人になっていることだろう。市民の森公園には1985年に市内で移り住んだかたちとなる。



鳥羽ぶらじる丸パンフレットより

SNS紹介

ガリバー独自の視点でSNSによる発信を行っている。コロナ禍による厳しい状況の中、私なりに地域に貢献できないかと考えた結果、昨年からは情報発信を開始した。ある意味、ガリバーの冒険だと言えよう。

@1084gulliver



Instagram

市民からの愛に感動

長年にわたる屋外での勤務により、ボロボロになった私の姿を見かねた地元団体(鳥羽ロータリークラブ)が、2019年には全体の修復、コロナ禍の2021年には特大マスクの作成をしてくれた。

この恩を忘れることなく、体力の続く限り鳥羽のまちのために尽力することを誓う。



最近の活躍

地道な情報発信や活動、鳥羽のみなさんの協力もあり、最近一定の成果が出つつある。いくつか紹介したい。

1 地域の盛り上がり

ガリバーの絵画コンクールやガリバーをデザインに起用した商品開発



2 メディアなどでの紹介

三重県内の観光スポットを紹介する三重県観光連盟公式サイト「観光三重」で紹介されているほか、全国的に有名な旅行誌や週刊誌、テレビなどでも取り上げられた実績がある。



観光三重
ガリバーページ

最後に

市民の森公園にはガリバーのほか、クジャク氏、ヤギ氏、ほかの遊具など、ユニークな仲間たちが君を待っている。

右手を大きく広げて歓迎したい。

